

# BREVA

## 気圧の変化を表示する ジャン・フランソワ・モジョン最新作

パルゼルワールドの中で、「新進気鋭」が集まるパレス。そこに今年初出展したブレイヴァが、8月から日本展開を開始する。嫌気性カプセルを用いて天候変化を表示する初作を手掛けたのは、ジャン・フランソワ・モジョンである。

Text by Hiroyuki Suzuki (Chronos-japan)

### ブレイヴァ ジェニー01

嫌気性カプセル内の気圧の増減によって、高度と天候の変化を表示する複雑時計。手巻き、45石、2万8800振動/時、パワーリザーブ約65時間、18K750（直径44.7mm）、予価2016万円。巻ノブフル スタイリング☎03-5775-1866

# 新

Watch  
The  
New

# 鋭



り、自身の名を冠したブランドを持つヴァンサン・デュボントロエ。若くして成功を収めた彼は、ハイエンドなスイスメイドウォッチを作りたいという欲望に駆られた。北イタリア、コモ湖でのパカンス中に、天候の変化を知らせる時計のコンセプトと、コモ湖周辺の温暖な気候をもたらす南風から「ブレイヴァ」の名を思い付いたという。この発想を実現するために、自刺の矢が立てられたのがジャン・フランソワ・モジョンであった。

3年の開発期間を経て完成した初作「ジェニー01」は、嫌気性カプセルによって気圧変化を測定する特殊機構を備える複雑時計。ふたつの嫌気性カプセルのうち、ひとつは気圧の変化を高度として表示。もうひとつは天候変化の予測として表示する。2時位置のプッシュヤーが高度と気圧の設定、4時位置は気圧イコライザーとして用いられる。

気圧イコライザー（4時位置プッシュヤー）は、カプセル内のエアを解放して大気圧に「リセット」するためのもの。同時に2時位置プッシュヤーを用いて現在の天候を表示をあわせる。ここからの気圧の増減が、天候変化の予測値となる。

時計師となったからの10年間をIW Cで過ごし、R&D部門の責任者を務めたジャン・フランソワ・モジョン。独立してクロノードを設立して以降も同社とは良好な関係を保っているように、大佐・ポルトギーゼ・シテラレ・スカフーリアでは、1秒駆進式のコンスタントフォース付きトゥールビヨンの設計にも参加している。これまでの主な仕事は、MB&Fの「レガシー・マシーン」、デント駆進機を搭載したウルバン・ヤーゲンセンの「クロノメーターP8」、ハリール・ウインストンの「オーバース」など。2010年のジュネーブ・ウォッチメイキング・グランプリでは最優秀ウォッチメーカーに選ばれている。そんな氏の最新作が、ヴァンサン・デュボントロエが起ち上げた新ブランド、ブレイヴァの「ジェニー01」である。

パリのファッションデザイナーであ